



心中天網島 三百年

享保五年(一七二〇)十月十四日、現在の大阪市都島区網島町あたりで、男女の心中事件がありました。この事件を元に、近松門左衛門が著したのが「心中天網島(しんじゅうてんのあみじま)」です。この心中天網島の元となる事件が起きて今日でちょうど三百年となります。

この時代、曾根崎心中をはじめ、数多くの心中事件がありました。中でも心中天網島は**心中物の最高傑作**といわれ、人形浄瑠璃から、歌舞伎、現代では舞台化、映画化もされ、後世に与えた影響は大きなものがあります。

その話の中で、特に有名なものが、「名残の橋尽くし」というもので、

「頃は十月十五夜の 月にも見へぬ 身の上は 心の闇のしるしかや 今置く霜は明日消ゆる はかなくたとえのそれよりも 先に消え行く 闇の内 いとしかはひと締めて寝し 移り香も なんとながれの蜷川 西に見て朝夕渡る この橋の**天神橋**はその昔 菅承相と申せし時 筑紫へ流され給ひしに 君を慕ひて大宰府へ たつた一 飛び梅田橋 あと追ひ松の**緑橋** 別れを嘆き 悲しみて 後にこがるる **桜橋** 今に話を聞渡る 一首の歌の御威徳かかる 尊きあら神の 氏子と生れし身をもちて そなたを殺し 我も死ぬ〜」

という、有名なくだりがあります。心中する二人が**曾根崎から都島方面**へ向かって東へと歩いていく中で見える橋を、**天神さまのゆかりに例えて**、その御神徳に導かれて、来世での縁を願うというものです。

この中で登場する、梅田橋、緑橋、桜橋は実際にあつた橋で、この二十六年後に作られた、『菅原伝授手習鑑』に登場する、梅王丸、松王丸、桜丸の名前のモデルになったといわれており、当時においても大きな影響を与えた事が分かります。

後に、明治、大正の大スターとなる**初代 中村鴈治郎**はこの心中天網島的一幕である「河庄」の段を得意としており、それに付随して天神さまへの信仰も篤く、大正十四年の公演前には当宮に参拝しています。

疫病や飢饉など、ただ生きるというだけでも不安の大きかった近世において、気持ちの保養をもたらした観劇の根底には、**天神さまという大きな心の支え**があつたのかもしれない。

七五三のご案内

当宮では七五三のご祈禱を受付けております。なお、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、本年につきましては、当宮の氏地(東は扇町、西は大深町、南は西天満六丁目、北は茶屋町までの範囲)にお住まいのお子さまに限らせて頂いております。ご予約制となっておりますので、まずは総合受付である、**茶屋町の御旅社までお電話か、メールにてご予約下さい。**

なお、基本的に七五三のご祈禱は神山町の御本社にて執り行いますが、参列数五名までであれば茶屋町の御旅社でも執り行う事は可能です。 ※七五三は**数之年**(満年齢に二歳足す)で計算します。

- ・三歳 平成三十年生(戌) **女児**(又は男児)
- ・五歳 平成二十八年生(申) **男児**
- ・七歳 平成二十六年生(午) **女児**

ご予約は下記まで ○六一六三七一一五八六

tunashiki@jinja.jp

今月の暦

【祭祀】 秋祭(十五日)：梅田の秋祭り。神事のみ

【節気】 寒露(八日)：露が冷気によって凍りそうになる頃 霜降(廿四日)：露が冷気によって霜となって降りる頃

【雑節】 十五夜(二日)：旧暦八月十五日。中秋の名月。芋名月 十三夜(廿九日)：旧暦九月十三日のお月見。豆名月 秋の上旬(十月廿日〜十一月六日) 土掘りは遠慮

【大安】 十月二日、八日、十四日、十九日、廿五日、卅一日

【朔望】 満月(一日、卅一日)、下弦(十日)、朔月(十七日)、上弦(廿三日)

【旬】

【野菜】 大豆、カブ、南瓜(日本種)、生姜、羊羹、栗、梨、栗、サクロ、りんご(早生)
【果物】 柿、梨、栗、サクロ、りんご(早生)
【魚介類】 秋刀魚、イワシ、太刀魚、鮭、コウイカ、
【その他】 きこの類、菊、秋バラ、金木犀、コスモス

雑感

ようやく秋らしい季節となつて参りました。先月は珍しく台風も少なく、穏やかな秋の入りですが、涼しくなつて参りますと、新型コロナウイルスはもとより、インフルエンザの流行も懸念されます。どうぞ油断される事なく、これからの季節に備えましょう。

網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社

編集 禰宜(御旅社 神主) 白江 秀知

